

第7回山口県地震・津波防災対策検討委員会の議事概要

日 時：12月24日（火）13:30～14:50

場 所：県議会棟6階 第一特別委員会室

出席者：三浦会長、金折委員、羽田野委員、宮田委員

- 議 題
- 1 瀬戸内海沿岸の津波浸水想定 条件・手法について
 - 2 瀬戸内海沿岸の津波浸水想定 結果について
 - 3 南海トラフ巨大地震の被害想定の手法等について

■議事概要

議題1 「瀬戸内海沿岸の津波浸水想定 条件・手法について」（資料1）

議題2 「瀬戸内海沿岸の津波浸水想定 結果について」（資料2）

- 南海トラフの巨大地震について、国の公表11ケースのうち、山口県では5ケースについて予測を行っているが、実際に地震が起こるのはそのうち1ケースでしかないことを前提に理解しないといけない。
- 周防灘断層群主部は発生確率が高いグループであり、比較的危険な分類に入る。
- 南海トラフの地震は非常に長い揺れ（長周期）で、周防灘断層群主部の地震は短い揺れとなる全く異なるタイプの地震であり、それらをまとめたのが浸水域となっていることに留意する必要がある。
- 今後の防災対策では、波の周期の違いも考慮する必要があり、浸水域は津波の波形と一緒に提示する必要がある。
- 津波の周期が長いと、「波」というより「流れ」としてとらえ、洪水と覚えてもらったほうが良いと思うし、水の量としては危険性が高い。
- 場所によっては第1波より第2波、第3波が大きいところがあり、周防灘断層群主部では、いきなり高い波が襲来するところもあるので注意が必要。

議事3 「南海トラフ巨大地震の被害想定の手法等について」（資料3）

- 周防灘断層群主部による地震は、これまで津波を想定してこなかったもので、今回被害想定を検討するにあたっては位置付けを整理する必要がある。
- 津波高や波形を見ると、周防灘断層群主部による想定被害は南海トラフによる想定被害に包含できそうである。
- まずは南海トラフ巨大地震の被害想定を優先し、別途周防灘の被害想定が必要か検討する必要がある。

今回の瀬戸内海沿岸の津波浸水想定結果を公表するにあたって委員から

- 次のことに留意し、最悪の場合を想定しているという前提をよくよく理解した上で、今後の防災計画・防災対策を考えてもらいたい。
 - ① 今回の浸水域は、想定外はないとの考えのもと、もうこれ以上可能性がないところで考えたものである。

② 南海トラフ地震について、国は震源を11通り想定しているが、実施に起こるのはそのうち1ケースだけ。

③ 山口県に一番被害を及ぼす最悪のシナリオ（地震により堤防は壊れる等）を基に計算した結果である。

○これまで日本人は津波の恐ろしさを真剣に考えていなかったと思うが、東日本大震災により津波の実態が分かり、やっと本気で取り組み始めたと思う。今回の想定は最大のところまで想定したと考える。

○この結果は重要であるが、これが強調され過ぎ、山口県の活断層や安芸灘の地震が起こることを忘れてはいけない。そうした注意を並行して伝えていく必要がある。

○国（内閣府）との前提条件の違いを県民にしっかり理解してもらうために、防災教育や普及啓発についてしっかり取り組むべきである。

○南海トラフだけ考えていればいいという訳ではなく、南海トラフ巨大地震の前後に起きるだろう内陸の活断層などの地震についても、県民へ周知していくことが非常に重要と考える。